

## Plant a Tree!

:: :: Philippine Negros Study Tour, Reporting and Reunion Day :: ::

October 9, 2009, 18:30--@S109 Dept.Agriculture, Kyoto University

### Program

- ◇ Introduction....Ayaka Kobayashi
- ◇ Tour Reports
  - September
  - 21<sup>st</sup> ....Ryosuke Yamamoto
  - 22<sup>nd</sup>....Yuta Watanabe
  - 23<sup>rd</sup> ....Mioko Umeda
  - 24<sup>th</sup> ....Ayaka Hayashi
  - 25<sup>th</sup> ....Fumiko Nakahara
  - 26<sup>th</sup> ....Azusa Ito
  - 27<sup>th</sup> ....Masatsugu Takada
  - 28<sup>th</sup> .....Takuya Ito
- ◇ IKAW-AKO introduction and talk....Ms. Mari Kurata  
Ms. Aki Tanaka
- ◇ Coffee break and Discussion  
(Native coffee and sweets from Negros.)
- ◇ Cha Cha Dance party!! ☺



### IFSA-Kyoto Univ.

#### 51<sup>st</sup> IKAW-AKO Study Tour Members



## IFSA-Kyoto × IKAW-AKO Negros Study Tour

### Day1, 21(Mon) Arrival

- 9:10 Arrival from Cebu (2 pax)  
Market, Piaya factory visit, etc... --- buy (Juice 120pix, biscuit 3pack)
- 18:30 Arrival from Manila (5 pax)
- 19:30 Go to Balaring, Home stay

### Day2, 22(Tus) Mangrove Planting in Balaring

- 6:00-6:30 Breakfast with host family ホストファミリー宅で朝食
- 7:00-9:00 Mangrove Planting and Cleanup マングローブの植樹・清掃  
Snack (Sandwich & Juice)
- 10:00-12:00 DADDJIS School visit, Trash can making ダッジス高校訪問/ゴミ箱づくり
- 12:00- Lunch with BAMPA BAMPA と昼食
- 14:00-1600 Soap making 石鹸作り講習会  
Snack (Biscuit & Bread)
- 18:30 Arrival from Manila (5pax)
- 17:00-20:00 Disco Party at Brgy hall ディスコパーティー(バランガイホール)
- 20:00-21:00 Dinner with host family ホストファミリー宅で夕食  
Rest 就寝

### Day3, 23(Wed) Coffee planting in Patag パタッグ村にてコーヒーの植樹

- 7:00-8:00 Breakfast at host family ホストファミリー宅で朝食
- 8:30 Leave Balaring ホストファミリーとお別れ
- 9:00 Courtesy call to Mayor 市長表敬訪問 - Marketing(Snack&Lunch)
- 10:00 Leaving to Patag パタッグへ出発
- 11:30 Arrive in Patag パタッグへ到着
- 12:30 Lunch with host family ホストファミリー宅に分かれて昼食
- 14:00 Lecture about Coffee with Dona Patag Extention パタッグ中学校でコーヒーの講義  
Coffee Planting コーヒーの植林
- 15:00 Snack & Tasting Native Coffee ネイティブコーヒー試飲会
- 16:00 Turnover Computer to Barangay
- 19:00 Dinner with host family ホストファミリー宅に分かれて夕食  
Rest 就寝

### Day4, 24(Thu) Hiking in Patag

- 8:00 Breakfast with host family ホストファミリー宅で朝食  
Start hiking to Cuyong 集合、クヨンまでハイキング
- 12:00 Lunch in Cuyong クヨンで料理・昼食、周辺を散策
- 15:00 Leaving Patag to Silay パタッグを出発

## IFSA-Kyoto × IKAW-AKO Negros Study Tour

18:00 Check in Baldevia Pension House バルデビアにチェックイン

19:00 Dinner at Sir and Maam Restaurant 夕食

Rest 就寝

### Day5, 25 (Fri) Interaction with UNO-R, Moscobado factory

6:00-7:00 Breakfast at Baldevia 朝食

8:00-13:00 Interaction at UNO-R UNO-R にて交流会

14:00-15:00 Nagros Forest 野生動物保全施設見学

15:00-16:00 Talleres de Nazaret リサイクルプロダクツ工場見学

18:00 Shopping in Bacolod バコロドで買い物, マッサージ

19:00 Dinner at Chicken Deli 夕食

21:00 Rest at Baldevia 就寝

### Day6, 26 (Sat) Mangrove Planting with Students

8:00 Breakfast

9:00-12:00 Mangrove Planting & Lunch

14:00 Visit Brgy. Nayon, San Elique サンエリーケ、ナヨン村の見学

19:00 Dinner at Aboy's or Valladolid 夕食

21:00 Rest at Baldevia 就寝

### Day7, 27 (Sun) Snorkeling in Sagay

9:30 Breakfast in the market

11:00 Balay Negrense ネグロス邸宅見学

12:00 Lunch at Chiken Deli 昼食

13:00 Shopping in Bacolod ショッピング

16:00 Massage! マッサージ

19:00 Dinner at Antilla 夕食

Rest at Baldevia 就寝

### Day8, 28th (Mon) 帰国

6:30 Departure to Manila (2pax)

10:50 Departure to Manila(2pax) 出発 2 人

16:30 Departure to Cebu(2pax) 出発 2 人

Participants:

2<sup>nd</sup> year of Forestry and Biomaterial Sciences, Department of Agriculture, Kyoto

University; Members of IFSA (International Forestry Students Association)

★9月21日 文責：山本良介

お昼前に、山本&伊藤、ネグロスに到着。小林隊長と合流。マリさんらとご対面。

シライ市のマーケットを巡る。野菜、肉、魚などのマーケットの品物をマリさん&レオさんに丁寧に説明していただき、その他の時間を利用していろいろな買い物を済ませる。

マーケットを移動中、コーヒーとビーフンみたいな料理をごちそうになる。美味。

隊長の「ハロハロを食べたい！！」という願望を叶えるため、ハロハロを探す。二件ほど行ってもハロハロがなく、あきらめかけたが強い意志でふんばり、ついにハロハロを売っている店を見つける。fiesta サイズのハロハロを三人で食べる。おいしい。

有機農法でつくった野菜をふるまうオーガニック料理屋に。昼食の前に畑の一部を管理者の方たちに説明してもらう。英語が全然ききとれない。山本と隊長が小食のため、ITが1.8人前ぐらいメシを食う。ここらへんからITの腹がぼっこりではじめたことに気付く。

ロビンソンにて買い物。トイレトペーパーは必需品とのことで、購入。リボビタミンDも。

おかし工場に行く。見た目は完全に民家。しかし、中にはピサヤ職人のおばあさんとおじいさんが。ピサヤは、ねった生地に黒糖のネチャネチャしたものを、餃子をつくるように巻いて、薄くのばし焼いてつくられる。ぼくら素人にはむずかしく、職人さんには笑われてしまった。けど、実に楽しい体験であった。

つくった石鹸を入れるのに必要なボトルをもらう。石鹸作りは、22日にやる予定。

事務所によらしてもらい休憩。昨月にあった、ikaw ako のイベントの様相がおさめられたビデオをみさしてもらう。植林する姿や仮装パレードやダンス、劇などの催しは見るだけで楽しかった。

梅田さん、ハッチ、チャイぞう、ゆうたろうがバコロド空港に到着。到着してスグだが、各班ホームステイ先の家へ移動。おいしい夕食をいただき、たどたどしい英語であったが、こころゆくまで会話をした。おけ水での冷たいお風呂の洗礼も受け、長時間のフライトで疲れがたまっていたのもあり、ぐっすりと眠ってしまった。

★9月22日 文責：渡辺勇太

出会いのはじまり

フィリピンスタディツアー初めての朝です。鶏の声で予定より早く起きてしまった人も多いのではないのでしょうか？それでも予定より遅く起きた不屈き者も二名ほどいましたがね。(笑)



さて、この日のメインはマングローブ植樹！

民家の間を抜け、fish pond を横に見ながらマングローブ林へ。すでに用意されていた苗木を受け取って植えるだけだったので、正直「こんな簡単でいいのかな？」という感じでした。でも植樹中は、泥に足を取られたり、マングローブの根っこが足に刺さったりと、苦労しながらも普段味わえない快感に酔いしれることができました。一緒に植樹した現地の子供たちとの交流が少なかったのが少し残念でしたが、約一時間植樹を行い、楽しかったと同時に、ネグロスのために少しは役に立てたか

なあ・・・と思いました。少しでも多くのマングローブが根付いてほしいと思います。

植樹が終わると、おやつ片手に小・中学生としばし交流。『ジーンズ！！（コマネチ）』という名ギャグが誕生したのもこの時でした。ギャグは国境を越えるとはまさにこのことです。休憩の間楽しいひと時を過ごすことができました。

この後、トライシクルによってダッジス高校へ。あきよさんがごみの分類などについての講義をしてくださったのち、生徒たちと一緒にゴミ箱作りをしました。僕は終始テープを切って生徒に渡すという作業をこなすのに精いっぱいでも全然周りが見えていませんでしたが、こどもたちはみんな楽しそうにデコレーションしていて、世界に一つだけのオリジナルゴミ箱が

出来上がりました。

おなかもすいたところで、昼食を食べに再び植樹を行ったマングローブ林へ行き、BAMPA の人たちと昼食会をしました。魚、エビ、牡蠣、アヒル、豚肉、野菜、果物と、たくさんの食材を使ってとても豪華な料理をふるまっていただきました。カキもおそろおそろ食べましたがみんな大丈夫でした。カキをはじめどの料理もとてもおいしかったです。



予定盛りだくさんの二日目はまだまだ続きます。午後からは有機石鹸作りに参加しました。まず、ゴミが入らないよう入念にチェックしながら、きれいな水をおけにいれ、そこにさまざまな材料を混ぜながら柔軟剤や食器洗い石鹸、洗濯用せっけん作りの実演をしてくださいました。商品用なので少しでもゴミが入っていたり、泡立ちすぎていると売れる時価値が下がるということで、とても丁寧に作業していました。そのあと、僕らも実際に体験させていただきました。粉の石鹸はにおいも見た目もアタックにそっくりでした。

ここからは夜のイベントです。バラリン村のバラガイホールでディスコパーティに参加しました。ディスコといわれてもあまりピンとこなかったのですが、ホールに集まってしばらくすると大音量で音楽が流れ始め、ディスコパーティ



上：ダッジス高校にてゴミ箱作り  
下：新鮮な魚介を使った昼食



は始まりました。もちろんディスコパーティーなどやったことがないので、始めはなかなか輪に入ることができませんでした。しかし、ダンスのうまいおじさんや、地元の高校生たちに誘われ少しずつ溶け込んでいくことができました。途中で子どもたちとバスケが始まったり、ストリートダンスのようなパフォーマンスがあったり、写真もたくさんとってとてもたのしいときを過ごしました。皆さんお疲れ様でした。



この日もバラリンでホームステイでしたが、前日よりもホストファミリーの方々と打ち解けることができました。そして、なんといっても Bea ちゃんがかわいすぎました。ほんとにかわいすぎました。

ツアー二日目はとても内容の濃い一日でした。



ディスコにて  
上から IT、チャイ、子どもたち

★9月23日 文責：梅田実生子

Balaring から Patag に移動

途中、サトウキビの刈り取り現場に立ち寄り、サトウキビをいただいた。甘くてとてもおいしかった。牛を使って運ぶらしく、牛が何頭かいた。

コーヒーの講義

フィリピンでは高校が 12 歳からで、高校 2 年生といっても 13 か 14 歳だった。アキさんがコーヒーについてクイズ形式で講義をしてくださって、高校生に混じって講義に参加した。その中で意外だったのが、コーヒーの消費量最多はフィンランドということだ。あまりコーヒーを飲むというイメージがなかったのが、どうして多いのが少し気になった。



コーヒー植林

講義を受けたあと、高校生の子たちといっしょにコーヒーの植林をした。竹の棒で穴を掘って、

その穴に苗木を植えていく。竹で穴を掘るのが難しく、挑戦してみたがなかなか掘れなかった。

#### ネイティブコーヒー試飲

おぼあちゃん（Patag にコーヒーを導入した人）がコーヒーを煎ってくれて、コーヒーを飲んだ。煎るときに卵の殻をいっしょに入れてその色が変わるまで煎るそうなのだが、最後の方はどこに殻があるかわからなかった。しっかり煎る方がおいしいコーヒーに仕上がらしい。仕上げにマスコバドという黒砂糖を入れて、完成である。



#### コンピュータ贈呈式？

私たちは全く関係なかったが、Ikaw Ako と提携している会社がパソコンを寄付してくれたらしい。待っている間にだしてくれたスーマンというお菓子がとてもおいしかった。ココナツミルクと砂糖ともち米でできたものである。どこに行ってもおやつを出してくれて幸せ！！



#### バスケット

フィリピンでは、バスケットが国民的スポーツで、Patag のような山の中の村でもバスケットコートをいくつか見かけた。現地の子どもたちといっしょにバスケットをしたが、みんなとっても上手で驚いた。言葉が違っても、スポーツは本当にみんなで楽しめると思った。

#### 感想

こんな斜面に植えるんだ！と驚くような山にコーヒーを植えました。ホームステイ先では11歳と4歳の姉妹がいたのですが、最初は恥ずかしがっていっしょに遊んでくれませんでした。しかし折り紙を教えてあげるととても喜んで何回も何回も作っていました。折り紙のおかげで一気に距離が縮まった気がします。あいにくの雨でしたが、すごく楽しめました。

#### ★9月24日 文責：林綾香

コケココロー。朝は目覚まし時計のアラームではなく、にわとりの鳴き声で起こされる。そんな体験ができるのも、フィリピンならではの。昨晩はホームステイ先で一晩中ダンスパーティーが開かれ、へとへとなりながら眠りについたが、朝起きてみると風が非常にすがすがしく、疲れも一気に吹っ飛んだ。今日は山へハイキングと聞いていたので、気合を入れて朝の着替えをすまし、朝ごはんを食べた。朝ごはんのメニューは、クラムチャウダーみたいなスープ、焼き魚、卵焼きだった。卵焼きがフィリピンの朝ごはんに出てきたのが、私としては驚きだった。その後、みんなで集合して山登りの前のガイドランスをレオさんから聞いた。そして、私たちのサポートにパタッグボリスがついてきてくださ

ることになった。そのなんとたくましく、頼もしいこと！！登り始めて最初のころはちゃんとひとが普通に歩けるような道があったものの、ちょっと歩いて行くとすぐに「ん？？これは道？それとも崖？」というような岩場を登ったりだとか、草木をかき分けないと進めないような道を歩いたりだとかしなければならず、想像していたハイキングよりも非常にハードなものだった。パタッグボリスが手を引っ張って支えてくれなければ、絶対一人では登れなかったと思う。昨夜降った雨で地面が湿っていたものの、今日は晴れていてよかったねと話していた矢先、やっぱり山の天気は変わりやすく、土砂降りの雨が降ってきた。ただでさえ湿っていて滑りやすい道が、雨で泥になり、踏ん張ろうとしてもまったく踏ん張れない。ここでも、やっぱりたよりになるのはパタッグボリス！しっかり手を握って支えてくれたため、なんとか前に進んでいくことができた。泥と雨と汗まみれになりながらも、ようやく昼食地点に到着。ラム酒が私たちの寒さで凍えた体を温めてくれた。私たちが休んでいる間に、パタッグの人たちが昼食を作ってくれた。昼食のために重い荷物を運んでくださったり、おいしい昼ご飯を作ってくれたり、至れり尽くせりで、本当にありがたい。疲れた体に再びエネルギーが湧いてきた。帰りは待ちに待った(?) スカイライン！話を聞いた時にはびっくりドンゴラみたいな乗物を想像していたが、実物を目にしたら最初は哑然として声が出なかった。「え！？ロープだけやん！」自分の体を支えてくれるのはロープだけ。あとは、滑車とベテランのおじさんを信頼して身を任せるのみ。地元の人はまったく躊躇うことなく器用に乗りこなしていた。私たちも乗らなければ帰れない。選択肢はない。意を決してスカイラインへと挑んだ。・・・楽しい！怖いけど楽しい！！下には深い谷が広がっているし、支えになるのはロープだけという状況だったが、これは恐らく一生にたった一度の体験だろうなと思うと、すごいことを経験したなと感慨深くなった。みんな無事にスカイラインに乗って、ホームステイ先へと帰宅した。パタッグでお世話になったホストファミリーに別れを告げ、イカオアコの事務所へとバスで向かった。事務所ではしばし休憩をし、ホテルでシャワーを浴びたあと、レストランで夕食をとった。これが今回のツアーでの初めてのレストランでの食事だった。おいしかったが、ホスト先の食事の方がやはり家庭的な味で私は好きだった。食事の後、明日の UNO-R での歌の発表の練習をし、振り付けを考えた。みんなであだこうだと言いながら何度か練習を重ねていくうちに、歌っていることが非常に楽しくなってきた。イカオアコの皆さんが私たちの歌に合わせて手拍子をたたいてくれたり、変な動きをしてくれたり(!) したのがすごくうれしかった。ホテルに帰った後は、明日のプレゼンの確認をした。私たちの参加者のうちの一人がその日誕生日だったので、プレゼントを買ったりケーキを買ったり準備をしていたのだが、実は1週間前に誕生日だった私の誕生日パーティーも兼ねていてくれたらしく、ちょっとしたサプライズがうれしかった。みんなありがとう！**Salamat**♪素敵な1日だった。



ハイキング in フィリピンの森



スカイライン



カントリーロード～♪の練習

## ★9月25日 文責：中原文字

### ① UNO-R と交流会

朝から大勢の大学の人に歓迎され、交流会が行われました。ツアー参加メンバーの自己紹介、パワーポイントで日本の紹介、出し物としてカントリーロードを歌い、その後はUNO-Rの人がダンスを踊ってくれて、ネグロスの紹介VTRを見ました。ダンスを踊ってくれたのはダンスの推薦で大学に来た子たちのようで、衣装もダンスも素敵でした。少しだけダンスを指導してもらいました！紹介VTRでは、ダンス祭りの多さに驚きました。その後は、大学の人と一緒に巻き寿司、豚汁を作って先生方と一緒に食べました。巻き寿司など、みんな喜んでくれてよかったです。

### ② 野生生物保護施設見学

昼からは、野生生物保護施設に見学に行きました。ガイドさんに案内・説明をしてもらいながら絶滅危惧種の鳥、ヤマネコ、鹿、イノシシなどを見ました。動物好きの私としては、始終テンションが上がりっぱなしでした！死んでいるように見せかけるために、胸のところに血のような赤い模様の入った鳥や、一途な鳥、興味深い動物が多かったです。この施設にはサルはおらず、他の施設で見れるとのことでした。今度ぜひそちらにも行ってみたいです。

### ③ リサイクルグッズ製作工場見学

Talleres de Nazaret というところの見学に行きました。お話を少し聞いたあと、実際にリサイクルグッズを作っているところを見せていただきました。女の人がジュースの空きパックをミシンで縫い合わせてカバンや、お財布

を作るそうです。リサイクル以外には、近くの学校から注文があればダンスの衣装も作っているそうで、見学に行ったときもちょうど注文があったようで衣装を作ってる人が大半でした。

④ ショッピング etc..

見学後は男子はマッサージ、女子はショッピングに行きました。男子はオイルマッサージでつるつるになってきたようで、女子はみんなでハロハロなんかをいただいて楽しみました。その後、宿舎に戻って休みました。

★9月26日 文責：伊東あずさ

### マングローブの植樹 again

ホテルで朝食後、再び Balarang に向かいマングローブの植樹を行いました。他のメンバーは2回目ですが、わたしとマスオにとっては初めてのマングローブ植樹でした。

今回は海岸での植樹です。そして前日に交流会をした UNO-R の学生も一緒です。海岸に行ってみると台風が近づいている影響もあってか風がものすごく強い！飛び立とうとして、風に流されている鳥がいるくらいの強風でした。

植樹自体は、何も無い干潟のようなところに植えるので、スムーズに進みました。ただ、とても風の強いところだったので、植えたマングローブがちゃんと根付いてくれるのが少し不安でした。

植樹のあとはゴミ拾い。マングローブの苗はビニールなどのゴミが引っかかることでも、枯れてしまうそうです。マングローブの木に引っかかっているビニールや落ちていたゴミを拾いましたがなかなか全部は拾いきれません。それでも、マリさん曰く、最初のころに比べるとかなりゴミは少なくなっているそうです。



上：植樹の様子



この日は Silay City が作っている観光宣伝用のビデオも撮影しました。みんなが植樹をしている様子を周りから撮影するのかと思いきや、「じゃあ、これ持ってそっちから歩いてきて、その後座ってー」など完璧にやらせてでした（笑）

左：みんなでジャンプ！

植樹後マングローブ林内での昼食でした。ここでも撮影。「これ、食べてみなよ。めっちゃうまいよ。」  
「ええー本当？（もぐもぐ）わあー本当だ！おいしいー！」  
など大根役者ぶりを発揮しての撮影後、村の人たちの一緒にご飯を



上：魚介類を使った豪華な料理

食べました。魚、エビ、牡蠣、カニなど、その土地でとれたものを使った料理で、どれもとてもおいしかったです。

最後にあかやとボチが英語でインタビューを受け、Balaring を出発しました。とても仲良くなったこともあって、村の人たちとお別れはさみしかったです…。

### ・ San Elique と大橋のおばちゃん

Balaring を出発後、San Elique にある Nayon 村と Tibsoc 村の見学に向かいました。この Nayon 村の村長さんの奥さんは大橋成子さんという日本人の方で、とても明るくてパワフルな方でした。

Tibsoc 村を見学し、村長さんにお話を伺いました。Nayon 村でも Tibsoc 村でもマングローブの植樹が行われているそうです。Balaring では牡蠣の養殖が行われていましたが、こちらでは魚の養殖や塩作りをしていました。特に Tibsoc 村は村の約半分が養殖池だそうです！



上：どこに行っても豪華なおやつ☆

Nayon 村に移動し、大橋さんの家でおやつ。ベチャベチャという名前の餅米と砂糖を揚げたもの、バナナとサツマイモを揚げたもの、ランブータン、ココナッツジュース、そして日本から持ってきたという麦茶をいただきました。ここでも子供達がとても人なつっこかったです。村の子供達と、大橋さんの娘のシサさんと Nayon 村の中を見学しました。Nayon 村はもともと中州のような場所にできた村であり、マングローブに囲まれていました。面積も 4ha しかなく人口も 250 人の本当に小さな村でした。

### ・ 大橋のおばちゃんと Dinner

夕飯の前に大橋さんからネグロス島についてのお話をしてもらいました。フィリピン、そしてネグロスの歴史、サトウキビたよった産業の問題点、1980 年代後半におきた砂糖危機など、とてもおもしろくてためになる話が多かったです。

その後の Dinner も大橋さんの楽しい話を聞きながら、賑やかなものになりました。



上：大橋さんとの夕食風景

### ・ おまけ(夜は長い！)

その日の夜はお世話になったツアースタッフさんへあげる手紙作りもしました。みんな疲れていることもあり、グダグダな雰囲気…。それでも「感謝の気持ち」だけを原動力になんとか完成！みんな、お疲れ様でした！



上：思い思いに書いてます

★9月27日 文責：高田昌嗣

### ◆感動のフィリピン最後の夜

フィリピンツアーもとうとうあと2日ということで、疲れも相当たまっていたために朝は9時半集合で市場に朝ご飯を食べに行きました。朝が遅かったためにみんな朝から元気でした。

朝食は市場で、豚の血でできたスープや、ジャックフルーツのスープなどを食べました。市場はスリが多いと聞いており、危ないイメージがあったが、活気がとてもあり日本では見られないような食べ物や生活用品などがあり、大変おもしろかったです。

朝食を取った後は、トライシクルという自転車タクシーに乗って大富豪の旧邸を訪れました。ここで愉快なおじさんのトムさんと合流しました。非常にレトロな屋敷で、珍しいものや円型の家系図など、大豪邸だったことがわかるものがたくさん並んでいました。



上:ホテル近くの市場の様子、写真に写っているのは全てバナナです

そのあとは、マリさんに頼んで、チキンデリに昼食に行きました。2日前の夕食で食べた鶏肉の柔らかさと温もり、ガーリックライスとチキンオイルの奏でるハーモニーを忘れられず、再びやっしまいました。二度目の今回も期待を裏切らずに、大変おいしかったです。さらに食後には、トムさんがアイスクリームをおごってくれるという特典付きでした！ubeという紫イモに似た味とフルーツサラダの2種類を食べました。

昼食後、前日に大橋さんが勧めてくださった博物館へ行くことになっていましたが、残念ながら休館でした。地下には世界の人形を集めた人形の部屋があるそうで、ぜひ行ってみたかっただけに残念でした。



上:ほっとして泣いている梅田さんと抱きつくあかや

その後、SMというショッピングモールにて、写真の現像や買い物をしました。

良介のデジカメのデータが消えるというハプニングがあったり、店員さんの努力でデータが復活という奇跡があったり、その奇跡に梅田さんが思わず涙を流すという感動があったりと、わずか1時間半の間に数多くのドラマが生まれました。

SMでお買いものした後は、セレブ気取りでマッサージをしに行きました。オイルマッサージで、気持ちよかったかは人それぞれということで・・・とにかく満足でした。

そして、本日最後はレストランで夕食です。ビール片手にスープやエビの炒め物などを食べ、たいへんおいしかったです。



上:素敵なダンスを披露しているマリさん

夕食後、英語でこのツアーの反省会を行いました。それぞれが感じた、このツアーの良い点と改善すべき点について発表しました。英語が得意な方も、そうでない方もみんながんばりました！そこでツアーのいい点は数え切れないほど多かったのですが、ホームステイの日数に関して、改善すべきという声が多かったです。

反省会のあとみんなで、マリさんやレオさんのためにカントリーロードを歌い、それぞれにサプライズプレゼントをしました。

象的でした。運転手さんとあきよさんのダンスもインパクトが強かったです(笑)

こうしてフィリピン最後の夜は楽しく、遅くまで宴は続きました。

マリさんの魅惑のダンスがとても印象的でした。

★ 9月28日 文責：伊藤拓也

卵の中からこんにちは！

最後の最後、Ikao Ako の事務所から飛行場に向かう前に、Ikao Ako のまりさんがフィリピンの変わった食べ物を買ってきてくれました。試食しましたが…見た目が…。



上：インドネシアで食べられる仰天食べ物 “パロット”

このパロットというのは、にわたりの卵なのですが、なんとにわたりの赤ちゃんがそのまま入ってるんです！食べると体力もついて元気になるといわれるのですが、なかなか躊躇して食べることができませんでした。パロットには食べ方があり、まず殻を割ってなかに入ってる卵のスープを飲みます。そして、あとは塩を少しふっつかぶりつきます。

食べてみると、味は普通のゆで卵と変わらずおいしかったです！でも食べ終わった後残りひとつパロットが残っていたのですが、誰ももうひとつ食べようとはしませんでした。

た…。フィリピンの変った食べ物を最後に味わえたのでとても貴重な体験になりました。

## ● Good Bye Negros !

結局3つに分かれてそれぞれフィリピンを出発しました。長いようで短かった1週間もついに最後です。ネグロス島を出発しないとけません。先発隊は早朝のフライトで大変でした。先発組が行ったあと残った4人は毎週月曜日に行われるシライ市の朝礼に行きました。このときはシライ市の観光局がいままでの活動を評価されて表彰されたそうです。惜しくも、表彰の時までは立ち会えなかったのですが観光局のなかを見せて

もらったりと貴重な体験になりました。

フライトの都合で28日の夕方までネグロスに残った伊藤・山本はもう一日お世話になることになり



ました。28日は、ジブニー(フィリピンのジープを改造したよく走っている乗り物)に乗って現地の人がどのようにジブニーを利用しているかを体感しました。ジブニーの運転手さんの運転はちょっと怖かったです。しかも「どれだけ乗せるの?」と思うぐらい大勢の人がぎゅうぎゅうになって一つのジブニーに乗り込んでいました。後は、バコロドで一番大きなマーケットに連れて行ってもらいました。ここには、日本のアニメキャラクターのどこか違うグッズや、かわいいかばん、帽子、ハンモック、バコロドのお祭りマスカラのお面などいろんなものが売ってあって面白かったです。そしてついに後発組の二人もフィリピンを発つことになりました。1週間でみんないろんなことをすることができて本当に貴重な体験になりました。

## ツアーを通して・・・

### 山本良介

今回のネグロスへのマングローブ植林の研修は、正直言って良いことづくめであった。それは、言うまでもなく、みんなが感じていることだと思う。どの体験が一番自分にとって良かったかなあと考えてみると、どれもこれも甲乙つけがたいが、一番となるとやはり地元のネグロスの人との交流になってしまう。

自分は、ネグロスに行く前、セブに行っていたから、彼らの温かさ、親切さが身にしみてわかる。なぜなら、セブの人々が僕ら日本人を見るとき、ただの金ヅルとしか思われてないように思えたからだ。

この言い方は語弊を招くかもしれないが、なにもセブの人が卑しいといたいわけではなく、これはセブのようなリゾート特有の雰囲気せいだと思う。とにかく自分が言いたいのは、それがあまり心地のよいものではなかったということだ。だから、ネグロスに行くときには少しばかりフィリピン人が怖かった。

しかし、その気持ちはネグロスに来てからは完膚無きままに打ち消された。本当に親切にしてくれるホームステイの人たち。その人々に一片の卑しきなど感じられなかったし、むしろ尊敬するのに値するような人間性もちあわせてい

る人々ばかりであった。ほんの数日間しか一緒に居なかつたくせに何を大口を叩いているんだと思われるそうだが、ほんとそのようないい人にしかいなかったのだ。そして、そのような人々に会えたのは、倉田さんのおかげであり、ツアーを懇願してくれた隊長のおかげでもある。本当にいいプランを企画してくれて感謝の気持ちでいっぱいだ。

シンプルに書こうと思って、書くことをひとつだけに絞って書いたら、だいぶ短くなってしまったので、もう少し書こうと思う。

諸事情により関空にみんなよりだいぶ遅れてついた後、特急はるかに乗り、京都に戻った。日本食に飢えに飢えていた。フィリピン料理は別にまずいというわけではなかったし、むしろ上手いなあと思うことのほうが多かったのだけど、その独特の甘い味付けにほどほど嫌気がさしていた。なんでそこにココナッツミルクをいれるの？と何回心の中で唱えただろう。たぶん今一番食べたくないのはココナッツミルクに間違いない。あと、ドリアンも。

そんなこんなで、日本で食べる最初の料理は、自分の中では非常に重要であった。最初はスタンダートにうどんとかそういう和食にしようかなと思った。なぜなら、関空を発つときに食べたのがうどんだったからだ。うどんが始まって、うどんが終わるというのもアリかな、と思った。でも、場所は京都駅である。京都駅の10Fには何があるかご存じだろうか？ラーメン小路。全国選りすぐりのラーメン店がズラリと軒連ねている夢のような場所だ。

結局ラーメンを食べた。宝屋のラーメン。言葉では表現できないくらい美味かった。

つまらないことだが、自分にとっては、フィリピンでの素晴らしい経験と肩を並べるぐらい印象的な出来事であった。やっぱり日本食が一番！！

#### 伊東あずさ

9月21日から9月28日の第51回ツアーに22日から途中参加させてもらいました。

なぜ途中参加かと言うと、21日に部活の試合が入ってしまったからでした。出発予定の3日前に飛行機を取り直し、無理矢理参加させてもらいました。急な予定変更で、イカオ・アコのスタッフの方にも、ホームステイ先の家族にも、一緒に行った友達にも迷惑をかけてしまいました。でも迷惑をかけても行きたいくらい楽しみにしていたツアーでしたし、実際行けて本当に良かったと感じています。

丸一日遅れて着いたときには、他のメンバーはディスコパーティーの真最中でした。何も分からないままバスから降りるなり子供達の「What's your name?」の言葉に迎えられ、そのまま会場の真ん中へ。最初はとまどったけれど、子供達や村の人たちの熱気におされて、いつのまにか一緒にダンスを踊っていました。リズムもステップも何も分からない。なのになぜか、一緒に体を動かすだけで不思議と楽しい！知らない人と出会って10分で手をつないでダンスを踊るなんて、日本にいた自分では考えられないことでした。Balaringの人たちが作り出す、温かくて楽しげでフレンドリーな雰囲気にあつという間に飲み込まれていたのです。

こうして始まった私の旅は、会う人会う人みんながすごくあたたかい人ばかりでした！

日本ではたくさんの人とすれ違っかかわることがあっても、そのほとんどは「他人」であって、興味も持たないし、どちらかと言ったら警戒の対象であることが多いのです。

それとは対照的に、ホームステイ先の村では会う人みんなが家族か友達のような様子でした。言葉は通じなくても、子供達とは絵を描いたりバスケットをしたりして遊び、大人の人とは一緒にお酒を飲んで、そしてみんなですべてチャチャを踊

りました♪人と話すのが苦手な自分はどこへとやら。

交流会をして一緒にマングローブの植樹をした UNO-R の学生さんたちも、びっくりするほど歓迎してくれました。一緒に料理を作りながらたくさん写真を撮ったり、冗談を言って笑ったり。言葉がほとんど分からなくても冗談って通じるものなんだな、と妙なところに感動しました☆そしてふと思ったのは「日本だったらどうだろう」ということでした。もし、言葉の通じない他の国から大学生が来たら、あんなにみんな歓迎するのかな。きっと積極的な子は英語で話しかけに行くかもしれないけれど、他の子達は遠巻きに見ているだけかもしれない。そして自分はきっと遠巻きに見ているほうだったろうなと感じました。でも、次にもしそんな機会があったら絶対仲良くなりたいし、見ているだけなんて寂しすぎると思います。そういう意味でも自分のなかで意識が変わった旅でした。

今回のツアーではマングローブの植樹とコーヒーの植樹をやらせてもらいましたが、実感したのは「人と自然の近さ」でした。

マングローブを植えた **Balaring** では、家の裏のようなところからもうマングローブが広がっていました。植樹にも村の人が参加していて、ここの人たちにとって植樹は「環境を守るための活動」であるのと同時に「日々の生活を守るための日常的な仕事」になっているのだと気付きました。イカオ・アコが「やってあげる」のではなく「一緒にやっていく」。まさに「イカオ・アコ」＝「あなたと私」を実際に植樹に参加してみて実感できました！こうしてつながっていく活動の一端に一瞬でも参加できてとても幸せです！

**Patag** でのコーヒーの植樹も、最初はコーヒー畑の一端に植えるのかと思っていたので、一緒に植樹をする子達が山の斜面に降りていくのにびっくりしました。**Agroforestry** を勉強したことはありましたが、実際に林の中に入って実物を見たのは初めてでした。コーヒーを植える穴を掘るときも、山の斜面を降りていくときも、自分の手際の悪さに比べて中学生たちはすばやい！あの子たちにとってあの山は、畑であり、山であり、村のすぐそば、もはや生活範囲の一部なんだなあと感じました。

ハイキングの途中で会った山の中で農業をしている人たちも、**San Elique** でマングローブに囲まれて暮らす人たちも、自然のすぐそばで、自然をうまく利用しながら生活していました。日本にも農家はありますが、日本の農家では見られない生活の形だと思います。

効率的な農林水産業を考えればどうしても集約的になってしまうし、集約的な農業と自然に密接した生活が両立するのは難しいかもしれません。今回移動中に目にした広大なサトウキビ畑のような集約的な農業がネグロス島にも存在するし（というより今でもそちらがメイン）、どんな形の生活が一番良いのかは分かりませんが、人と自然が密接した暮らしは私にとって、とても新鮮で魅力的なものに思えました！

気温もあたたかくて人もあたたかい。

人と人との距離も近いし、自然と人との距離も近い。

毎日 12 時過ぎに寝て 6 時に起きるようなハードスケジュールだったはずなのに、思い返してみればずっと笑っていたツアーでした。あたたかくて距離の近い生活では自然と笑顔があふれてくるのです♪

今回のツアーでは私たちは、用意してもらった苗を植樹して、作ってもらった料理をいっぱい食べさせてもらって、クロージングで誰かが言っていたように本当に至れり尽くせりなツアーでした。色んなものを与えてもらえばかりで、ありがたくて嬉しいのと同時に少し心苦しいくらいでした。

でも、大事なのはこれからこの経験をどういうふうにつないでいくかだと思っています。私たちが植えたマングローブの苗は、日本からは遠く離れたあの風の強い海岸でずっと大きく育っていくし、私も自分の中に植えてもらった「大切な経験」という苗を、ここ日本でちゃんと育てていきたいと思います。

最後になりましたが、ツアーをくんで一緒に回ってくれたマリさんを始めイカオ・アコのスタッフの方々、まるで本当の家族のように優しくしてくれたホストファミリーや村の人たち、どっから来たのかもよく分からない私達を歓迎して仲良くしてくれた UNO-R やいろんな学校の生徒さん、そして、この旅で出会った全ての人に心から salmat!!!

### 梅田実生子

マングローブのことはもちろんですが、短い間でもホームステイという貴重な体験ができたことで、フィリピン・ネグロス島の文化に少しふれることができました。まず、村が大きな家族と言えるくらい近所付き合いが盛んで、最初どこまでがこの家の家族の人なのかかわからないくらいでした。外国人の私達を家族のように受け入れてくれ、本当に過ごしやすい環境でした。次にお客さんのことを一番考えてくださっていて、ご飯のときも私たちが手をつけるまで食べないし、タバコをいつも吸う人が私たちがいる間は我慢したり、どこに行ってもおやつが出てきたりと・・・至れり尽くせりというのはこのことだと思いました。本当によく気を使ってくさるので、申し訳ないと思うこともしばしばありました。古き良き日本というか今の日本になくなってしまった大事なものがちゃんと残っていたと思います。

### 伊藤拓也

今回のツアーはとても有意義なものになりました。普段の生活では経験できないような体験を数え切れないほどすることができました。フィリピンの人々との交流が一番貴重な体験となりました。Ikao Ako の地元の方との強いつながりのおかげで僕たちのことも本当に快く歓迎してもらいました。マングローブ植林をはじめ、コーヒー植林、トレッキング、工場見学、学生との交流、マーケットの散策、ダンス、スコール、水のシャワーなど多くの経験ができて自分のなかに一つ大きな財産となった気がします。また、長年フィリピンに住んでおられる大橋さんの話の影響もあるのですが、フィリピンの常にどこにでも子供がいて、ご近所の仲がよいというコミュニティーを見ていて日本の日常を見直しました。経済的には確かに裕福な日本だけけど、本当に良いコミュニティーはほとんどない状況がさびしく思えました。また、マングローブの植林については、地元の人が率先と植林を行い、マングローブの良さを理解していることにびっくりしました。自然を大切に、自然のありがたさを理解するという本当に基本的なことをしっかり理解しているのに多くを学べました。

でもとにかく、一番良かったことは地元の人と拙い英語ではあるけどしっかり話すことができたことです。普通の旅行ではホームステイも簡単にはできないですし、地元の学生と交流することはもっと難しいです。そんな貴重な経験を通して、自分の価値観を少しは広げられたと思います。

まだまだ、いろいろ見てみたいところ、行ってみたいところはありますが、まだしっかり整理がつけられないぐらいいろいろな経験をして充実した1週間で過ごせたので本当に良かったです。

### 小林彩夏

どこまでもどこまでも自分の背よりもうんと高い、緑のサトウキビ畑が一面に広がっているのが最初に見えたのは、かたかた揺れながら、少しだけお姫様になった気分になれる、トライシクルで風を切りながらでした。聞いていた歴史の話よりも、実際の空は明るくみえたのでした。

ネグロスでの一週間は、たくさんのお出逢いとたくさん笑顔で溢れていました。  
人々が、ほんとうに温かかった。

本当は、今までは「エコツーリズム」なんて自己満足に過ぎないのではないかと考えていました。日本にこんなに沢山解決できない問題があるのに、どうして海外へ行って植林や環境保全活動と名前だけのことをして、良いことした気分になっていいものだろうか、と。

マングローブの苗木を時間をかけて育ててもらって、運んでもらって、穴も掘ってもらって、言葉通り「植えるだけ」まで私たちのために準備してくれたバラリンの村の人たち。そんなの、全然納得がいかなかったけれど、それがフィリピンのスタイルのもてなしで、彼らの最大限の歓迎の表現で、お客さんの喜んでくれる顔さえみられれば、満足でうれしいんだ、とレオさんの言葉が忘れられなかった。

同じ地球にこうした生き方をしている人たちがいて、こんなに文化も生活も違うのに、同じ場所で笑い合って、その一瞬一瞬を共有できることがわかったこと。たとえその中での活動が「環境によい」かどうかは、未来の地球のみが決めることであっても、こうして人々の笑顔を作り出しているのなら、これ以上何が必要なんだろう。

ずっとずっと笑いの絶えない楽しい旅が続きました。

だけど、無邪気な子供たちの笑顔の裏では、複雑で抜けられない社会構造があることを教えてもらった嵐の日。旅の最後を目の前にして、結局、フィリピンの、ネグロスの、何をみてきたんだろう、と気づかされました。

もう一度、戻りたい。今度は、今回のようにはじめて見るものにすべてに感動し、人々の優しさに甘えるだけじゃなくて、一番元になっている日頃の暮らしや人々の考え方、もっと本質的なものに目を向けられるようにしたい。

このツアーを通して巡り逢えたすべての人へ、心からの感謝をここへ表したいと思います。

### 林綾香

このツアーで得たものが何かということを言葉で表すにはとても難しい。しかし、本を読んだり話を聞いたりするだけでは決して分らないようなフィリピンの生の生活を肌で感じることができ、非常に良い経験ができた。私が今まで持っていたフィリピンのイメージは、日本にバナナをたくさん輸出していること、大小様々な島国から成り立っていることくらいだった。フィリピンへ行くことが決定し、参加者みんなフィリピンやネグロス島の歴史や文化、言葉や食事を

事前に勉強して初めて、今まで知らなかったフィリピンの側面が少し見えてきた気がした。しかし、実際にフィリピンに到着し、ホームステイをさせてもらったり、地元の人々と交流していくうちに、彼らがどのように日々を送っているかを知ることができ、それはフィリピンに来なければ絶対に分らないことだったと思う。日本でいくら勉強したところで、やはり実状を知るためには現地を訪れ、現地で生活することが非常に重要であることが再認識できた。

このツアーでは本当に様々なアクティビティーが用意されていて、1週間という短い期間だったものの、すごく濃い時間を過ごすことができた。一つ一つの活動にそれぞれ感じることもあり、すべてを書ききることは到底できないのだが、少しピックアップしてみる。まずは、やはりタガログとパタッグの村でのホームステイ。最初はうまくホストファミリーと馴染めるかだとか、ちゃんと英語で話せるかだとかを気にしていて、すごく緊張していた。しかし、初めて会った瞬間から、ホストファミリーが笑顔で出迎えてくれて、さらに積極的に話しかけてくれたことに安堵したのと同時に、フィリピンの人々の温かさがすごく身にしみた。フィリピンツアー中終始感じていたことだが、フィリピン人はすごく思いやりに溢れていて、ゲストに対する扱いが非常に顕著だったのに驚いた。例えば、ゲストが先にご飯を食べたあと家族がご飯を食べたり、常時私たちのことを気遣ってくれたり、本当に至れり尽くせりで、こちらが申し訳なく感じるくらいだった。しかし、彼らは私たちに最大限の優しさを示してくれ、感謝の念でいっぱいである。私がフィリピンに行ってもっと驚いたことは、なんといってもフィリピン人のチャチャである。出発前にプログラムを確認した時に、ディスコパーティーという文字を見つけ、これは何だろう？日本のパーみたいに自由に踊る感じなのかな？と思っていたら、連れてこられたところは村の集会場。いきなり音楽がスピーカーから流れだし、あたふたなっていると、どんどんと地元の人が集まりだして、果てには手を取ってチャチャを教えてもらうことになった。はじめの頃戸惑っていたことがうそのように、音楽に合わせて踊ることが楽しくなっていき、次第に茶々がやめられなくなった。マリさんの腰の動きは、真似したくてもまねできなかった……。さすがマリさん！フィリピン人がこんなにもダンスが好きだなんて思ってもみなかったのが、驚いたと同時に、ダンスを踊っているときはフィリピンの男性陣が積極的になっているのが印象的だった。私ってフィリピンに合ってるのかも！と思うくらい、チャチャディスコパーティーは楽しく充実していた。このツアーのメインであるマングローブの植林も、私にとっては初めての経験だった。自分の手で植えた苗には愛着が湧いて、元気に育てよと心の中で声をかけた。しかし、私たちがしたのは苗を土の中に埋めて土でかぶせただけだったので、苗の準備をもっと手伝えたら良かったと思う。ツアーを通して見ると少しの時間しか一緒に過ごすことができなかったが、大橋さんのお話は非常に勉強になった。主にサトウキビ生産に関するネグロス島の歴史やネグロス島が抱える大土地所有制の問題について、非常にわかりやすい説明をしてくださった。土地と権力をもつ地主が政治の世界をも牛耳っているとお話であったが、国が根本から変わっていくためには政府が主導をとらなければならない、地主主導の政策ではなかなか農業で暮らしている人々にとって有利な国の体制を作ることは難しいのではないだろうかと思う。古くから続いている階級制度をばっこんから変えるのは、非常に骨が折れる大変なことだろうが、経済格差をなくしていくためには必要不可欠なのではないだろうかと思える。

その他に、このツアーでは本当に様々な人と出会い、交流することができた。人との出会いは、旅の中においても、また人生の中においても、非常におもしろく、自分の視野をものすごく広げてくれる。今回のフィリピンツアーでも、マリさん、アキさん、アキヨさん、Leoさん、Panoyさん、Navenさん、タガログの人々、パタッグの人々、小・中・高校生、UNO-Rの学生、村長さん、大橋さん、トムさんなどなど、忘れられない人々と出会うことができた。この出会いは本当に貴重なものであり、将来必ず再会できることを心から願っている。

今回のフィリピンツアーでは、日本の古き良き時代の風景も見られた。例えば、バコロドではご近所同士で非常に仲が

よく、塀の向こう側から気軽に話しかける光景や、子供たちが元気よく走りまわったり、遊んだりしている光景が当たり前だった。昔は日本の農村でもそのような風景はしょっちゅう見られたのだったが、現在では本当に少なくなってしまうように思う。私たちは急激な経済発展を経て先進国となり、周りには物が溢れていて生活に困ることはほとんどないが、フィリピンの人たちの生活や晴れ晴れとした笑顔を見ていたら、物質の豊かさだけが心の豊かさだけではないんだなと感ずることができた。フィリピンに来たことは一生の思い出であり、ここで経験し感じたことを将来生かしていきたい。

最後になりましたが、このフィリピンツアーを企画し、運営し、私たちの要望を快く受け入れてくださったイアコアコのスタッフの皆さん、ツアーに関係してくださったすべての人々、ツアーの準備をしてくれたり、リーダーとして動いてくれたあかや、そして IFSA の参加者全員に本当に感謝しています。ありがとうございました。

### 中原文子

ツアー全体の感想を簡単に述べさせていただきたいと思います。今回のこのフィリピンでのツアーが私の初めての海外旅行でした。もう不安とか言ってる暇もなく、着いていきなりディスコで踊り、それから現地の人々とたくさん接し、たくさんを経験し、仲間ともたくさん協力し。初めはフィリピンの食べ物にも慣れなかったし、終始英語はうまく話せなかったし、人一倍疲れてしまっていたかなと反省点が多々あった旅でしたが、私なりにかなりの経験になった旅だと思っています。やはり日本が楽ですが、この貴重な体験は日本にいても、将来海外に出るとしても、活かしていきたいなと思います！IKAW-AKO の方々、現地の人々、仲間みんな、関わっていただいたすべての人に感謝してもきれないと思っています。良い経験を、楽しい時間をありがとうございました！

### 高田昌嗣

今回、Ikaw-Ako のマングローブスタディーツアーで、多くのものを得られました。

最初このツアーに誘われたとき、フィリピンは漠然と危ない国というイメージもあって、病気にかかったりしないかという不安もあり、あまり乗り気でなかったのが本音です。しかし、実際にフィリピンに行くと、そんな不安もすべて飛んで行ってしまうくらい、毎日が楽しくて、新鮮なことだけでした。

ホームステイも人生で初めての経験で、英語が得意じゃないので、うまくコミュニケーションが取れるのか、気まづくなったりしないか…など不安なことだけでした。しかし、フィリピンの人々はみなさん優しく、僕らの拙い英語を一生懸命聞いて下さったり、おいしいものを作って下さったりと、本当に楽しい時間を過ごすことができました。

マングローブの植樹やコーヒーの植樹なども印象深かったです。コーヒーの木を植えた時は、地元の高校生と一緒に植樹をしたのですが、あまり言葉は伝わらなかったものの、なぜかとても楽しく、やたらとハイタッチばかりしていたのを覚えています（笑）また、マングローブにからみついているたくさんのゴミも非常に印象的でした。海辺に様々なゴミが打ちつけられてくるらしく、マングローブ林の周りにはゴミだらけで、そのゴミがからみつくと、木が死んでしまうとのことでした。マングローブ林が失われているという問題に対して、植樹をすれば解決するわけではなく、こういうゴミの問題なども解決しなければならなく、大変だと感じました。

パタッグでのスクールの中でのハイキングは辛かったです。。でも様々な木や植物をみることができましたし、ワイヤー一本でできた超絶叫マシーン「スカイライン」にも乗れました。あの時のスカイラインから見た景色は忘れられま

せん。

大学生や高校生との交流も貴重な体験でした。フィリピンの人たちは、陽気で明るくて、本当に素敵な人ばかりでした。フィリピンではどんなことをしても受けてくれるので、自分のお笑いスキルが上達したのかと勘違いしてしまうほどでした（笑）

今回のツアーで、いろんな人と出会い、Ikaw-Akoの方々をはじめ色んな人に助けていただき、色んな経験をすることができ、本当に貴重な経験でした。この経験はきっとこれからも忘れられないと思います。Ikaw-Akoをはじめ、今回ツアーに関わってくださった方皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

### 渡辺勇太

このツアーに参加する際、正直かなり悩んだ。今まで19年間生きてきて日本から出たことのない僕が、いきなりフィリピンに一週間も行って大丈夫なのだろうか。さらに、フィリピンについて調べれば調べるほど、マラリアなどの病気、衛生、水・食事の安全性などいろいろな問題があることに気付いた。そんなところで一週間無事に過ごせるのか、など多くの不安が頭をよぎった。しかし、その不安と同時にそれらのとこを何も気にしなくて生きていける日本が、いかに恵まれているかということのを再認識した。

結局、ツアーへの参加を決めたわけだが、ツアーの始まる前日まで「期待」よりも「不安」のほうが大きかった。その不安から虫よけや胃薬など大量の医薬品を買い込んだ。パスポート取得が遅かったせいで、マニラまで一人で行かなければならないこともさらに不安を助長した。

そして9月21日、フィリピンツアーが始まった。

実際当日になると覚悟も決まり、「不安」は薄らいできていた。マニラでチャイたちと合流でき、バコロドまで無事到着し、迎えに来てくれていたバスで移動したわけだが、その途中、来て間もない僕とチャイが呼ばれた。「二人はここでおりて。」と。街灯もほとんどない暗闇で、初めて来た土地で、言葉もまともにしゃべれないのに一番に降ろされた！このとき、当日になって薄らいでいた「不安」が爆発した。この先、一週間いったいどうなるのか・・・

しかし、暗闇の中ホームステイ先のお宅にたどりついてからは、楽しいことしかなかった。ホームステイでは、英語の能力の問題で満足に会話をすることはできなかったが、やさしい家族にかこまれとても幸せな時を過ごすことができた。マングローブやコーヒーの植樹、ごみ箱作りなどを通して、ネグロスの子供たちとたくさん交流できた。一緒にバスケットをしたことも、子供たちを追っかけまわしたことも、ほんとに楽しい思い出として残っている。

ツアー中子どもたちと接する機会が多く、子供好きな僕にとって幸せだった。子どもたちと遊んでいて、ほんとにみんなきれいな目をしていて、みんなかわいかった。普段日本で塾の講師をしていて、小学校から塾に行かされているような子供たちと接しているからよけい、ネグロスの子供たちの自由さというか、子供らしさが際立って見えた。もちろん日本でも子どもはかわいいものなのだが、日本の子供たちよりも純粋にみえ、心があらわれる思いだった。ほとんどの子供たちが、日本人からすると経済的にも物質的にも環境が悪いとこで育っているのにもかかわらず、みんな元気である。日本でも田舎の子供たちはこれに近いのだと思う。そういえば芦生の実習のとき出会った子どもたちもこんな感じだったなあ。

ツアー中は毎日予定が盛りだくさんでじっくり日本とフィリピンについて考える時間はあまりなかったが、大橋さんがおっしゃっていた、『ネグロス日本人にとって鏡のようなもの』という言葉はとて心に残った。ネグロスで一週間過

## IFSA-Kyoto × IKAW-AKO Negros Study Tour

ごして、トイレやシャワーなどやっぱり日本がいいと思ったし、当たり前だがご飯も日本食のほうが口に合う。日本にいと、ひよっとすると海外でもただのリゾート地では気付けない、こういったことに気づけた。こうした再発見もふくめて、今回本当に素晴らしい体験ができた。行くかどうか迷っていたこのツアーだが、今は『参加してよかった』という思いだけです。ツアーを終えてフィリピンが好きになった。また、『鏡』であるネグロスをもっとちゃんと見てみたいなあと思った。

あとは、思い出の品や名刺を持っていけばよかったなあとか、英語しゃべれたらもっとちゃんと交流できたのになあと後悔しています。次にこういう機会があった時に後悔しないようにしたいと思います。

最後に。ツアー中は大きな病気にもかからず、盗難などの被害にも合わずに過ごすことができました。これは、ミネラルウォーターを提供してくださったり、「この氷は安全だよ」など、はじめてきた僕らにはわからないことを教えてくださったり、他にも数えきれないほど良くしてくださった IKAW AKO のスタッフの皆さんのおかげです。本当にありがとうございました！！